



【写外】(2016年4月1日)を発行した。内容は東日本大震災から5年、当時を振り返り、「たしるかおる」の「参院選議員と大衆」元国交大臣との対談である。このほか、JR貨物労組の存在意義と

私たちが働く鉄道貨物輸送の社会的責任が明確に語られている。

すべての組合員の皆さん、思い出していただきたい。原発事故と相まって壊滅的な打撃を受けた中で、東北全域の被災者を一人でも救おうと私たちは、超法規的に『緊急石油列車』を走らせた。『たしるかおる』が電力を確保し、私たちは全国から機関車を集め、整備し、乗務訓練を行い、地震発生からわずか1週間後被災地に『石油列車』を届けた。この『石油列車』が被災者を救った。救援部隊を支えた。人間の営みを復活させたのだ。

私はこのJR総連広報紙「勇気と自信を与えてもらった。私たちは改めてこの闘いに自信と確信を持つべきだ。しかし決して驕ることなく、そのために私たちは、この闘いの原動力はここにあったのかはつきりさせました。私たちは未曾有の大震災に自らも直面し、茫然自失のなかでも一仲間を命を救いたい、一人でも多くの命を救いたい」との一心で、考える間もなく身体は動いていたのではないだろうか。そこには人間本来が持つ、種の存続と自らの生存を脅かす「恐怖心」や「危機感」、「怒り」や「使命感」、「正義感」が強く現れたのではないのか。

今度参議院選挙の結果は、私たちの将来に対する危機感を増幅させる。万が一にも自民党安倍政権が勝利すれば、それはまさに暗黒の社会の幕開けだ。まず安倍政権は、憲法改悪を実現す

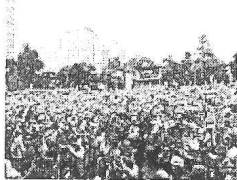
闘いの原動力は「怒り」と「危機感」 「さあ跳べ！ ここがロドウス島だ！」

その骨子は「自民党憲法改正草案」だ。これは①前文には「主権在民」「基本的的人権」「平等」となり、②「戦争の放棄」は撤廃して、「安全保障」の名のもとに「国防軍」を保持する。そして③「経済政策の破綻」「選択と集中」の下で「たしるかおる」の貧困と格差はますます拡大する。貧しい市民が困窮するであろう。働く者が貧しいを求めて「経済的徴兵制」に反対するを得ない。そして鉄道貨物輸送は、自らの生き残りや社会的責任の名のもとに「軍事物資輸送」を積極的に担うであろう。そして他者からすれば、軍事施設として攻撃の対象となる。まさに「戦争をする国」の完成である。その犠牲者は、若き組合員であり、私たちの手や孫である。

『たしるかおる』はこの6年間、反動化する安倍政権に抗して戦後70年維持してきた憲法とその精神を守るために、働く者の幸せのために、わが鉄道貨物輸送の社会的発展のために、そして議会制民主主義を守るために命を懸けて闘い抜いてきた。ゆえに安倍政権とその権力者は、たしるかおるの闘いに必ず死である。

すべての組合員の皆さん、想像してみてください。『たしるかおる』がない政治を。社会を。わが社の将来を。あつてはならない風雲が自ら浮かぶのではないのか！

私は現在のJR貨物労組「たしるかおる」の原動力「プロジェクト」の現状に極めて強い危機感を持つ。このままでは「プロジェクト」を貫徹することはできない。残り三ヶ月、私たちはこれまで闘いに自信と確信をもって「たしるかおる」の闘いを想像し、自らを賭して目的を貫徹しなければならぬ。特に組合役員リーダーは「さあ跳べ！ ここがロドウス島だ！」と叫ぶ。決して悔いを残さない闘いを展開しよう！



3月19日、日比谷野外音楽堂で開かれた「戦争法廃止！安倍政権暴走を許さない」3・19総会。

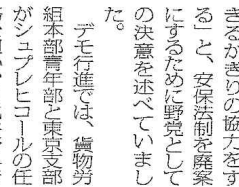
3月19日、日比谷野外音楽堂で開かれた「戦争法廃止！安倍政権暴走を許さない」3・19総会。JR総連210名が参加した。当日は小雨が降る悪天候にも関わらず、会場に入りきれないほどの市民(全体で約5000人)が集結し、「戦争法反対！」「安倍政権退陣！」と力強く声をあげました。集会では民主同盟も駆けつけ、「強行採決が行われた9・19から半年が経過したが、おかしい」という声は広がっている。安倍政権の暴走を許さないために野党は、



「戦争法廃止！」
安倍政権の暴走許さない
3・19総会から日比谷大会まで



現在、与党・自民党は「憲法上、あらゆる種類の核兵器の使用がおよそ禁止されている」といふことは考えていない」と内閣法制局長官が発言するなど、安倍政権の暴走が更に加速しています。今後平和な社会の実現をめざして取り組みま

デモ行進では、貨物労組本部青年部と東京支部がシュプレヒコールの任務を担い、日比谷野外音楽堂から銀座までデモ行進を元氣よく牽引しました。



また集会の後は、貨物労組は青年部の力強いシュプレヒコールに合わせて、「原発再稼働反対」「安倍政権を許さない」と訴えて代々木公園を出発し、原宿や青山の街を回り、明治公園

たしるかおる議員 国会だより

3月27日、民主党と維新の党、改革結集の会が合併して「民進党」を結党し、156人の国会議員が所属する野党が誕生しました。

日本国憲法を破壊し暴走する安倍政権にストップをかけるべく、あくまでも憲法に則って立憲主義、民主主義の政治を実践する政党であることが立党の原点です。そして、生活者、納税者、消費者、働く者の立場に立った政策を立案し実現を目指す政党であり、原発に頼らない社会を目指す政党であることを綱領で謳っています。

そして何より、安倍法廃止を目指して、野党の中心に成るべくして生まれた政党です。私は、内容上憲法9条に違反する事はもとより、昨年9月17日から19日未明にかけて、たった4行(発言する者多く、議場騒然、聴取不能、委員長退席)という記録しか残せなかった安倍法特別委員会と強引な本会議の設置という無茶苦茶な国会運営による強行採決は、手続き上も安倍法が成立していない無効の法律であると思っています。何としても、廃止にしなければ憲政の常道に反します。中々根付かない真の民主主義を、この闘いによって日本の社会にガッツリと根を張り巡らさねばなりません。そういう意味で、民進党は国民と友に進む政党として、皆さんとともに成長して行かなければなりません。

更に、アベノミクスで大きく開いた格差、貧困の広がりを是正し、かつてのように分厚い中間層の再生を目指します。社会保障、福祉、医療、介護、子育て支援、大学生の奨学金無償給付等、人への投資を通じて社会・経済の活性化を目指します。

私達、民進党の国会議員は、民主党政権時代に組合員の皆さんの政権交代への期待を大きく裏切ってしまった失敗に対して深い反省に立ち、お詫びをし、そして克服しなければなりません。

私、たしるかおるは、あくまでも市民・働く者の立場に立つ政治家として、そして鉄道・バスをはじめとした公共交通で働く者の職域代表の参議院議員として、これからも組合員の皆さんと共に闘っていきます。

「つながろう福島！守ろういのち！」 「原発のない未来へ 3.26大集会」




福島原発事故から5年が経過し、チェルノブイリ事故から30年を迎えようとしている中で、3月26日に東京・代々木公園で「原発のない未来へ！」3・26全国大会が開催され、「つながろう福島！守ろういのち」をスローガンに、総勢3万5千人の参加者が集まり、JR総連や貨物労組からも多くの組合員が参加した。

また集会の後は、貨物労組は青年部の力強いシュプレヒコールに合わせて、「原発再稼働反対」「安倍政権を許さない」と訴えて代々木公園を出発し、原宿や青山の街を回り、明治公園

参加してきました。集会では、安倍政権が推し進める原発政策に反対する声にとどまらず、民主主義を否定する姿勢と、憲法改悪や辺野古新基地建設を進める安倍政権に反対し、会場全体で「NO」を突き付けました。

また集会の後は、貨物労組は青年部の力強いシュプレヒコールに合わせて、「原発再稼働反対」「安倍政権を許さない」と訴えて代々木公園を出発し、原宿や青山の街を回り、明治公園